

平成 28 年度 社会福祉法人けやきの杜 事業報告

法人本部の事業報告

1. 社会福祉法等の一部を改正する法律の施行を受け、組織改編を行いました。定款、理事・評議員定数の変更を行い、評議員選任・解任委員会を設置しました。
2. 新規事業（就労 B 型）の開設に向け準備中です。あすか・みずほの移転先を確保し開所準備を進めています。
3. 事業部制度を導入しましたが、機能しませんでした。また特定の職員に権限が集中し、上層部のみで決定される事項が多くありました。平成 29 年度は従前の組織体系に戻すと共に、役割・責任の明確化を図ります。
4. 平成 28 年度中には就業規則や給与規定の改善はできず、平成 29 年度に委員会を発足させ検討します。人材確保は依然厳しく、採用専門企業と連携をとって進めます。評価制度は運用を続けつつ改善していきます。
5. 他法人との協業を検討していましたが果たせず、白紙に戻し、法人内組織強化を優先とします。

通所施設事業所の事業報告

1. 希望園生活介護事業では、ポスティング作業と下請け作業を中心にプログラムを組むと共に、健康管理や清潔保持で個々のニーズに合わせた個別プログラムを実施しました。造形活動で外部作品展への出展を行いました。
2. 希望園就労継続支援 B 型事業では、急速冷凍機プロトンをさらに活用し、新たに小規模多機能むさしに調理した夕食の提供を行いました。今後は、食材事業及び清掃事業の拡大が課題となります。
3. 希望園就労移行支援事業では、定員 9 名・延べ人数 14 人に対し 5 名が就職をしました。新規利用者獲得のため営業に努め、平成 28 年度の新規利用者は 3 名、平成 29 年 4 月からの新規利用者は 2 名でした。
4. ワークセンター・さくら生活介護事業では、リサイクル作業とポスティング作業を中心に取り組みました。配達事業では、利用者が地域との関わりを多く持てるよう地域の指定された店舗やお宅への配達を行いました。
5. ワークセンター・さくら自立訓練事業では、「地域生活の入り口」「社会人 1 年目」という観点から、一人ひとりの課題に合わせ、作業プログラム・生活プログラム・学習会を行いました。その結果学習会への参加が難しかった利用者が参加できた、作業面の落ち着き度合いが増した等、一定の成果が得られました。
6. ワークセンター・さくら就労継続支援 B 型事業では、利用者が 8 名から 13 名に増加したため、新規のポスティング・ペーパー配達を取り入れ、適正な作業量の確保に努めました。
7. ワークセンター・さくら就労移行事業は、事業を希望園の就労移行に移管し、廃止しました。
8. 地域活動支援センター虹では、安定した通所に至らない方等の受け入れを積極的にを行い、訪問や面談、作業プログラムを提供しました。安定した通所が可能な方には、製菓作業・クリーニング取次・食品販売作業等、ご本人がやりがいと地域との関わりを実感できるプログラムを実施しました。計画相談については光町活動室併設の相談支援事業所のぞみと連携し、サービス等利用計画の作成やモニタリング等の支援を提供しました。

地域生活支援事業所の事業報告

1. ライフネットでは、稼働時間について自立支援給付が前年実績比 91.0%となり、事業全体の総稼働時間は前年度実績比 87.9%となりました。有資格者ヘルパーを増やすことが課題となっています。
2. 短期入所事業カペラでは、利用実績は前年度比 106.7%でした。引き続きニーズが高まっています。
3. 小規模多機能むさしでは、実質登録月人数は 14 名から 17 名と目標を大きく下回りました。利用者の介護度は要介護 3 人以上の方が 10 名となっており、介護ニーズが高い利用者が半数以上を占めています。
4. 国分寺市障害者就労支援センターでは、国分寺市の委託を受け、障害のある方の就労支援を展開しました。市役所実習を 4 回実施しました。2 ヶ月に 1 回、ハローワーク立川にてマッチング会議を開催しました。
5. 放課後等デイサービス・ルーチェでは、登録利用者数は平成 28 年 4 月は 7 名でしたが、平成 29 年 3 月時点では 29 名になりました。平日は学習支援中心、休日は学習支援と SST・外出プログラムに取り組みました。
6. 国分寺サポートセンター・オアシスでは、サービスの依頼に誠実かつ迅速に対応して運営しました。コーディネーターが詳細な情報と資料を作成し、運転手が円滑に業務を行えるよう取り組みました。
7. 地域共同生活支援センター・レハイムでは、あすか・みずほが契約期間満了を迎えるにあたり、国分寺市本多および戸倉に利用者の受け入れのできる建物をお借りできる目安を付けました。
8. 地域共同生活支援センター・スコールでは、レハイムやみかさとの情報共有や連携を図ることで、利用者の望む生活の実現に向けての支援の在り方を検証・考察し、支援力向上に努めました。
9. マイホーム・みかさは触法者を 2 名受け入れており再犯防止に取組みましたが 1 名が再犯・退寮となりました。